

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

学校名	みやき町立三根中学校
1 前年度 評価結果の概要	① 主体的で深い学びを促す授業設計、目標提示、学習のふりかえりをより丁寧に行う。（学習目標の具体化及び授業構成の工夫はできたが、主体的な学びに結び付けたい） ② より実践的な道德教育活動の展開に取り組み、いじめや問題行動の協働的な解決ができる学校教育環境を構築する。（日常生活において、道德的判断の実践力を高めさせたい） ③ 既存の学校システムや前例踏襲に拘らない、具体的教育方針を共有し生徒や職員が個々の能力を発揮する。（率先垂範の実践を通して教師の指導力向上にもつなげたい）
2 学校教育目標	三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～
3 本年度の重点目標	① 校内研究と各種調査の分析による、主体的な学びに向けた指導方法の工夫改善を継続させる。 ② 生徒個々の特性や状態把握に努め、いじめの未然防止・教育相談と特別支援教育を充実させる。 ③ 全人的な生徒の成長深化を目指したキャリア形成に係る教育実践を充実させる。

4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価			
(1)共通評価項目								
重点取組				具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研を基にした指導法改善と全職員による共通理解及び共通実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・各種調査の分析を基に学力向上を目指した取り組みを実践 ・校内に研究を軸に、教科ごとのマイプラン指標を共有し授業づくりに随時反映	B	・学力向上マイプランの成果指標を達成した教師72%。(4及び3の評価) ・結果的に県平均と同等か、わずかに下回る学力ではあったが、校内研究における成果事例共有が効果的であったとは言えなかった。	A	・生徒が主体的に学べるよう、手立て等をさらに工夫してもらいたい。 ・生徒の活動や、授業等を参観できる機会を増やしてもらおうとい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道德」に対する生徒の肯定的評価4段階の割合の向上(50%以上)	・道德の授業、全教育活動での道德性の追究、実践促進 ・TTやローテーション道德に取り組み、道德授業の充実を図る	A	・「道德の時間にしっかり考えることができた」と回答した生徒94%。「道德の時間は自分の役に立っていると思う」と回答した生徒89%であった。(それぞれ4及び3の評価)	A	・学校評価アンケートの結果からも、学年が上がるにつれ、心の成長が図られていることがわかる。今後も、継続した道德教育をお願いしたい。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○QUの結果において、2回目で不満足群、非承認群を減少 ○生活アンケート等において、安全・安心に学校生活を送れている生徒が90%以上	・毎月生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努め、相談しやすい雰囲気をつくる ・生徒指導協議会等で、共通理解と対応を協議	B	・QU検査の結果では、不満足群、非承認群は微減であり、顕著な変化は見られない。 ・生活アンケートで、安心・安全に学校生活を送れている生徒86%。 ・職員間の情報共有や対応については、組織的に行うことができるよう、改善を図りたい。	B	・日頃から生徒の様子をよく見てもらっていると感じる。生徒の訴えに対する丁寧な対応はもちろん、アンケートの質問項目等もバージョンアップが必要。 ・不登校生徒の意見や、想いも取り入れていくことが必要である。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・体験活動を取り入れた進路指導、進路学習の推進 ・自己肯定感を高める、実感のある承認の場面を取り入れた行事の実践	A	・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じている生徒の割合は85%であった。(4及び3の評価) ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合は76%であった。(4及び3の評価) ・概ね生徒の進路指導は成果をあげていると思われる。	A	・アンケートの結果から、生徒の先生方に対する信頼も高いことがうかがえる。 ・学年が上がるにつれ、具体的な夢や目標をもつ生徒が増えている。	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・食に関するアンケートを実施し、実態や経年変化による課題分析 ・食生活を改善する保健学習、食に関する学習、道德の学習の実施	A	・「朝食を必ずとる」と回答した生徒は70%(4の評価)、「頻繁にとれないことがある」「全くとらない」と回答した生徒は7%であった。 ・「食事の栄養バランスに気を付けている」と回答した生徒は85%であり(4及び3の評価)、朝食をとっている生徒と概ね合致している。	A	・朝食に関しては、各家庭の状況によるところが主。朝食を食べないことを習慣化している家庭もあり、家庭との連携をとり、指導をしていく必要がある。 ・食事を取る、取らないだけではなく、内容も重要である。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務状況の客観的把握と課題改善 ・WEB行事黒板機能を生かした業務の可視化に努め、見通しをもった業務遂行	B	・2月末までの平均月別時間外業務時間は、25.1時間であった。月当たり45時間超の延べ月数は36月であり、6か月を超える職員が3名いた。職員個々の業務に対する価値基準は、合理性重視に変化してきているようである。	B	・簡単ではないと思うが、先生方が業務改善の工夫を行い、働き方改革を進めてもらいたい。それが、子どもたちの未来へつながって行く。 ・部活動地域移行の進捗状況を見守って行きたい。	
●特別支援教育の充実	○全ての生徒に対し、分かりやすい授業づくり ○生徒一人一人の実態を適切に把握し、授業の工夫と合理的配慮を行う	○「授業が分かりやすい」と肯定的回答をした生徒75%以上	・UDを意識した多面的な指導改善 ・一人一人の実態に寄り添った集団による授業の工夫や合理的配慮の提供	A	・「授業内容は分かりやすい」と回答した生徒は92%であった。(4及び3の評価) ・「分からない点があった点などに、質問しやすい雰囲気がある」と回答した生徒は74%であった。(4及び3の評価)今後も、生徒の実態を把握し、授業の工夫や指導の改善を行う。	A	・個別の支援計画、教育課程等を踏まえ、事前の共通理解や共通実践を行って行くことが重要。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組				具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言	
○	◎三根中学校に誇りをもつ生徒の育成	○三根中所属への肯定的評価の向上(意識調査肯定的評価4段階評価の4の割合を50%以上)	・自立を促す出番、役割、承認場面と客観的な振り返りの場面設定 ・各種実践に対する生徒評価の還元	A	・「三根中学校に入学してよかった」と回答した生徒62%、「三根中学校に入学させてよかった」と回答した保護者26%(4段階で4の評価)であった。 ・保護者への情報提供や説明のあり方について改善を図っていく。	A	・先生と生徒との信頼関係が良好なことがうかがえる。 ・学年が上がるにつれ、学校満足度が高くなっていくのが理解できる。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	① 主体的な学びへ向けた指導方法の改善を継続し、共通認識を深める。個別支援の教化と授業改善を進め、学びの質向上を目指す。 ② 生徒個々の特性や状況を把握し、職員間での情報共有を強化する。組織的な対応の体制を確立して、安心・安全な学校環境を向上させる。 ③ 生徒の自発的活動をさらに促進し、キャリア形成に役立つ実践を強化する。
--------------------	--